

「知られざる『旅愁』の越境物語～戦前東アジア文化交流の一断章～」

多くの日本人は唱歌・「旅愁」は日本の名曲と理解している。また多くの中国人も中国の名曲と意識している。さらにこの歌は韓国においても台湾においてよく親しまれてきた。しかし、それは19世紀の半ば頃アメリカに生まれた Dreaming of Home and Mother（「家と母を夢見て」、作曲ジョン・P・オードウェイ [John P. Ordway]）に由来する。1907年に日本の作詞家で音楽教育者の犬童球溪によって訳され「旅愁」として音楽教科書「中等教育唱歌集」で取り上げられた。やがて日本の植民地になった台湾や朝鮮半島にも広げた。そして、東京留学中の中国若手音楽家・画家の李淑同の手で「送別」として中国に広く伝えられた。本報告は、近代「旅愁」の伝播軌跡の物語を通して、戦争時代の東アジアの文化交流の意義を再吟味する。